

令和元年度

全国学力・学習状況調査【分析/課題/改善策】

《国語/数学/英語/英語（話すこと）》

◆ 国 語 《P.1》

- ・平均正答数/平均正答率
- ・正答数集計値 割合(%)
- ・分析/課題/改善策

◆ 数 学 《P.2》

- ・平均正答数/平均正答率
- ・正答数集計値 割合(%)
- ・分析/課題/改善策

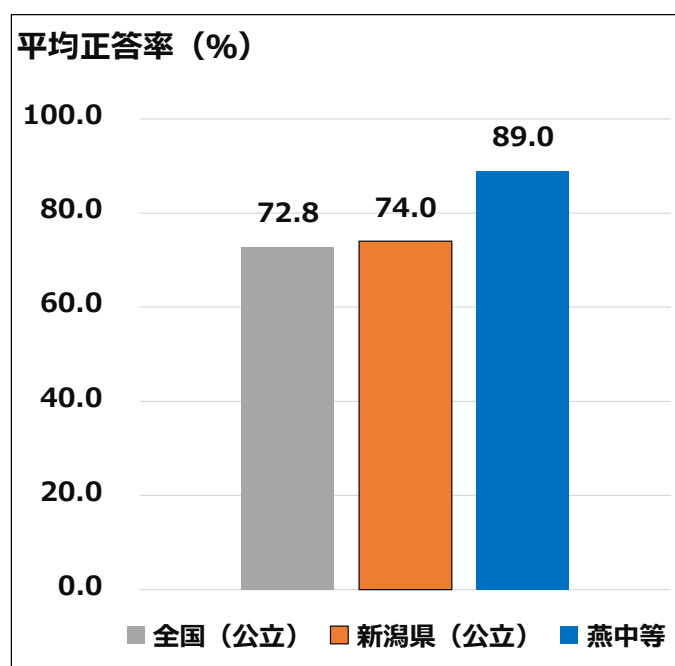
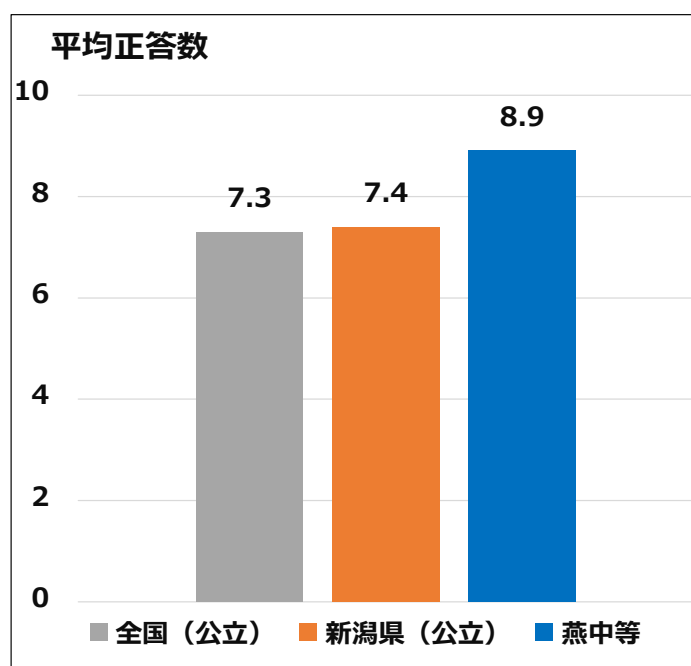
◆ 英 語 《P.3》

- ・平均正答数/平均正答率
- ・正答数集計値 割合(%)
- ・分析/課題/改善策

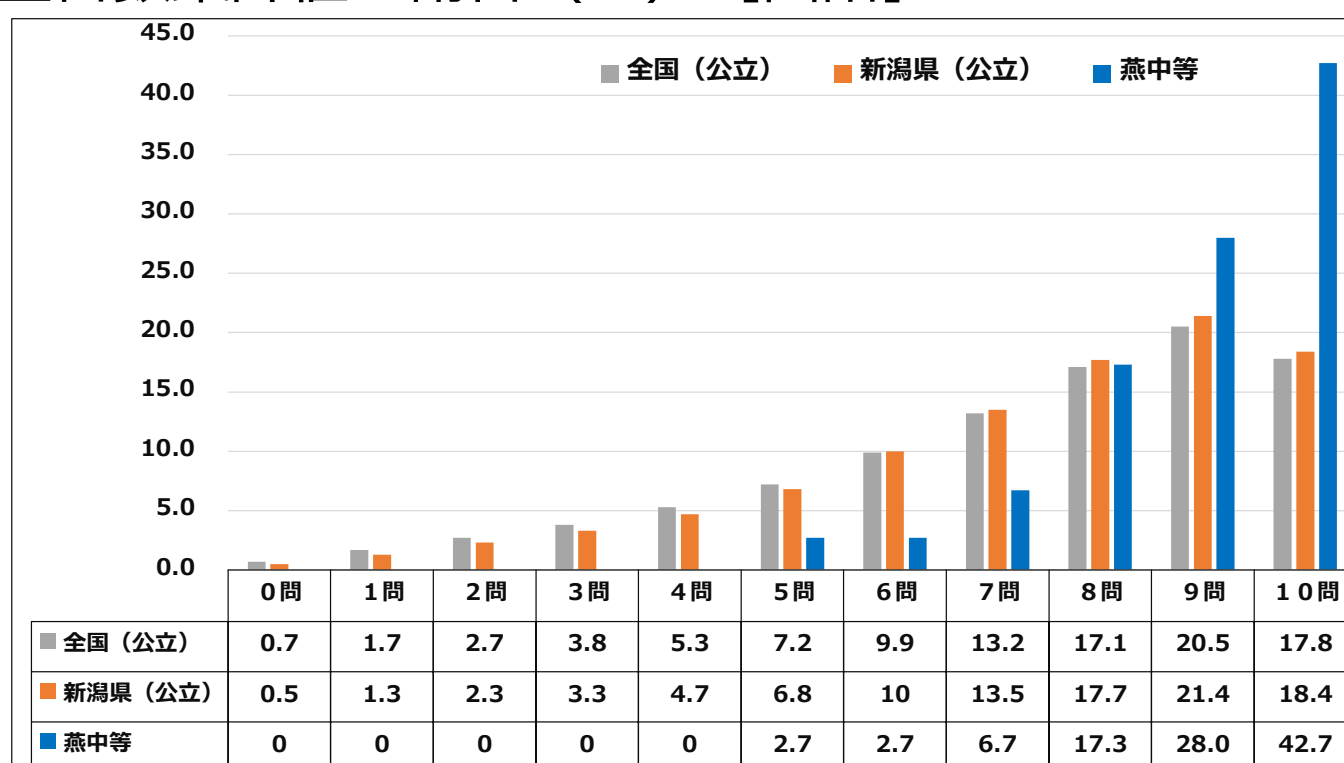
◆ 英 語（話すこと）《P.4》

- ・正答数集計値 割合(%)
- ・分析/課題/改善策

H31全国学力・学習状況調査【国語】



正答数集計値 割合（％）【国語】



国語【分析】

- ・本校の正答率（89.0％）は、県平均（74.0％）・全国平均（72.8％）に比べて、全観点において大きく上回っている。
- ・特に「読むこと」の領域が優れていると言える。
- ・全体的に解答率は高く、記述式の問題に対しても、ほぼ全ての生徒が自分の考えを記述している。
- ・生徒質問紙から、「国語の学習は大切である」と回答する生徒が多くいる一方で、「国語の学習が社会に役立つ」と回答している生徒の数が、県や全国平均に対して少ない。

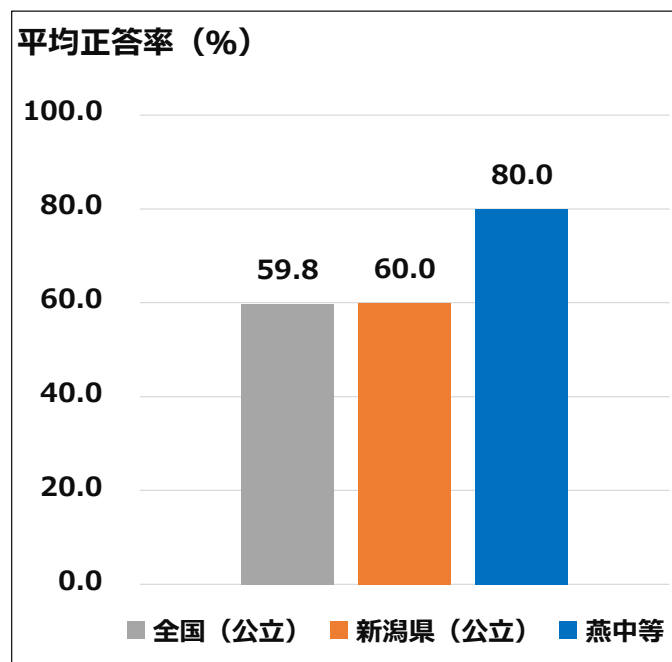
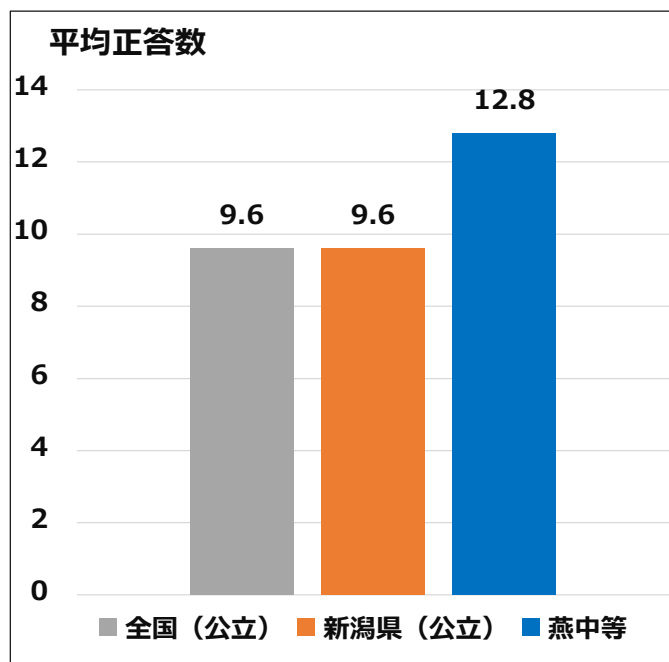
国語【課題】

- ・国語の学習で身に付けた力が、日常生活や今後の人生において役立つものであると実感できるような学習経験を積んでいく必要がある。

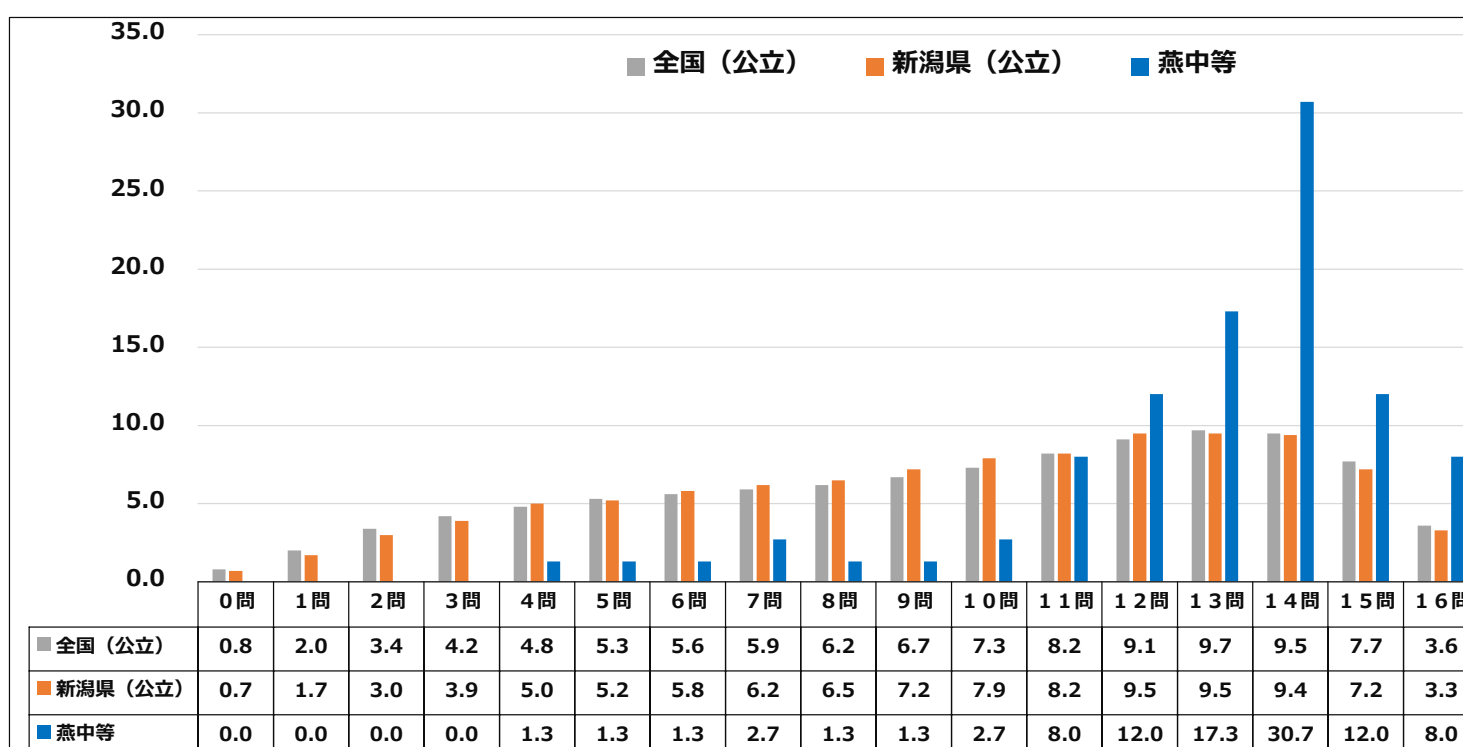
国語【改善策】

- ・日々の授業において、生活の中で国語の学習が生かされているという実感をもたせられるような授業展開の工夫をする。
- 具体的な改善策として次の①～④について取り組む。
 - ①学習内容と社会的な事象を関連づけて、意見を書く機会を増やす。
 - ②教科書だけでなく、新聞なども教材として活用する。
 - ③目的意識をもって、主体的に文章を読む場面を設定する。
 - ④小グループでの対話の場면을積極的に設定し、対話の作法や技術を身に付け、他教科や学校生活の他の場面で生かされるように工夫する。

H31全国学力・学習状況調査【数学】



正答数集計値 割合（％）【数学】



数学【分析】

- ・平均正答率は、80％（全国59.8％）で、昨年に引き続き、全国平均を上回る結果となった。記述問題の無解答率が全国と比較して低く、粘り強く問題に取り組む姿勢が見られる。正答数の割合を見ると、16問中14問（87.5％）できた人数がもっとも多く、16問中10問以上（62.5％以上）できた人数の割合は90％である。全国平均を唯一下回った項目は、「2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める」であった。また、資料を読み取り、数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低く、全国との差があまり無かった。

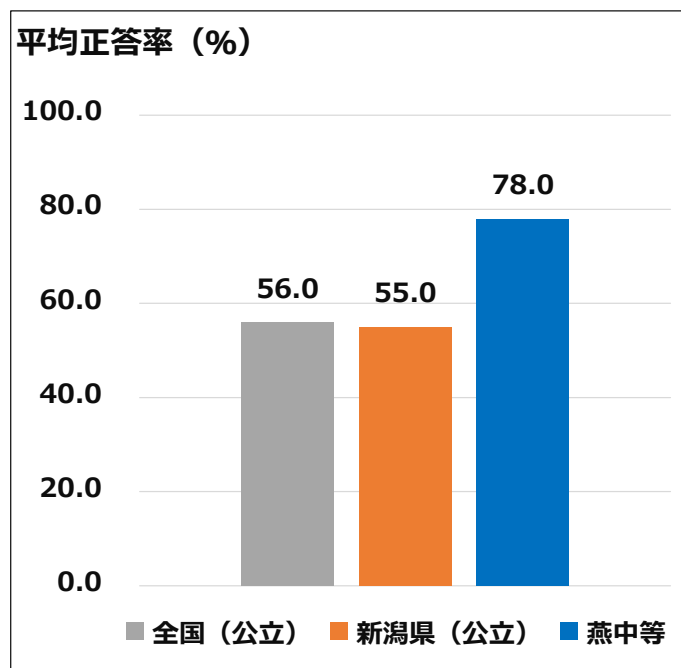
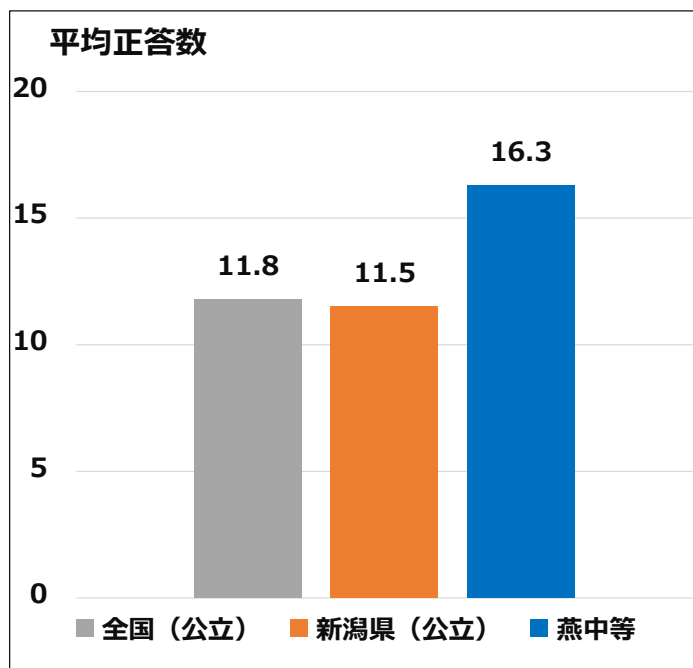
数学【課題】

- ・正答率が60％を満たさない生徒が全体の1割いる。
- ・より上位層へ移行させるための具体的ななてだてが課題である。
- ・確率の求め方の指導が不十分であると思われる。
- ・事象を数学的に解釈し、数学的に表現（説明）する力の育成が不足している。

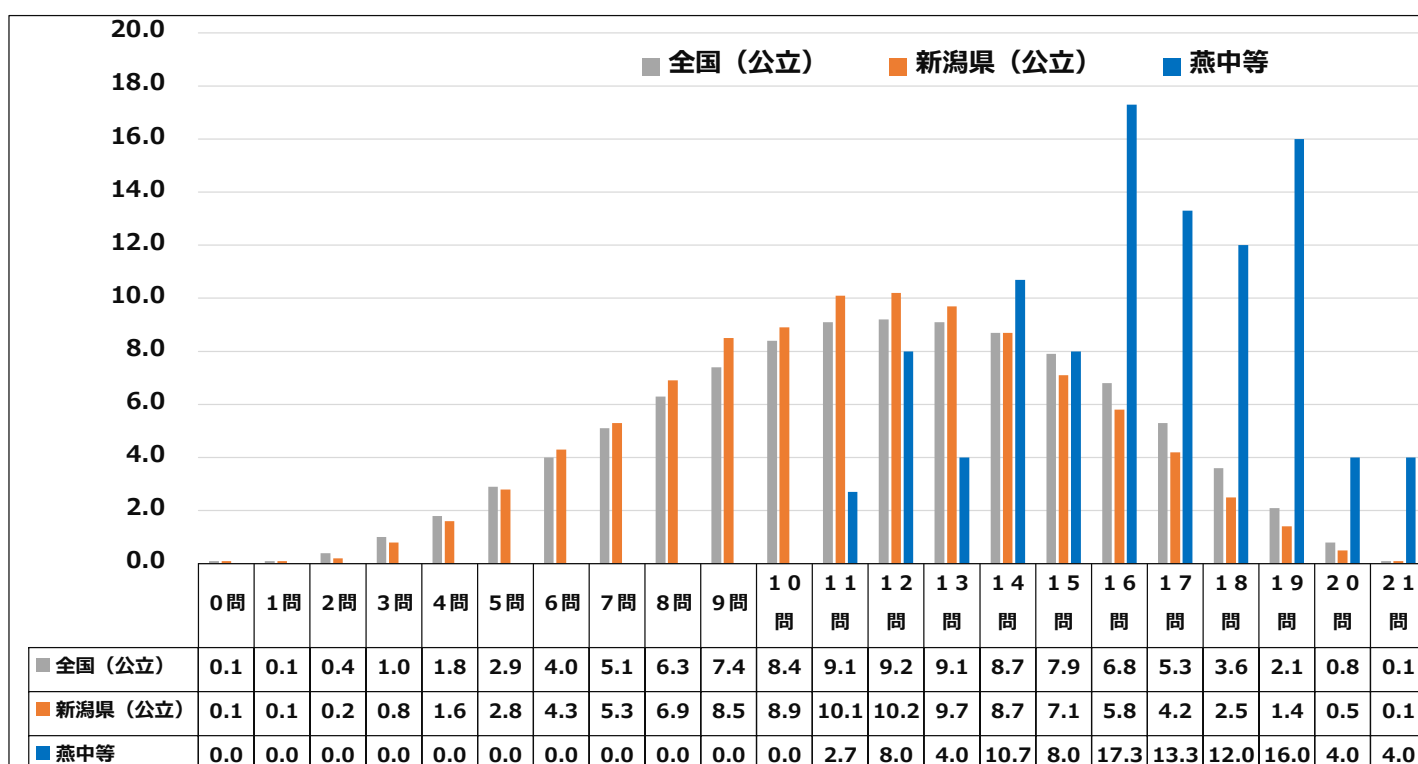
数学【改善策】

- ・正答率が60％を満たさない生徒については、既習事項の復習をしっかりと行わせ、授業では、机間指導等で個別に丁寧に指導する。
- ・確率は頭の中だけで考えるのではなく、起こりうる事象を表や図に表して考える力を身につける必要がある。
- ・受動的な学習を極力無くし、生徒が数学の見方・考え方を働かせて課題を解決していく主体的な学びを実現させる。

H31全国学力・学習状況調査【英語】



正答数集計値 割合（％）【英語】



英語【分析】

- ・リーディング、リスニング、ライティングの平均正答率78％（全国56％）で昨年に引き続き、全国平均を大きく上回る結果となった。
- ・具体的にはリスニングで平均正答率67.9％（全国81.9％）、リーディングで平均正答率55.6％（全国76.7％）、ライティングで平均正答率45.8％（全国75.2％）と全国平均をどれも大きく上回る結果となった。
- ・特にライティングの正答率が全国平均に対して高いのは、ライティング課題を課したり、授業内で英語を書く活動を多く取り入れてきた成果である。

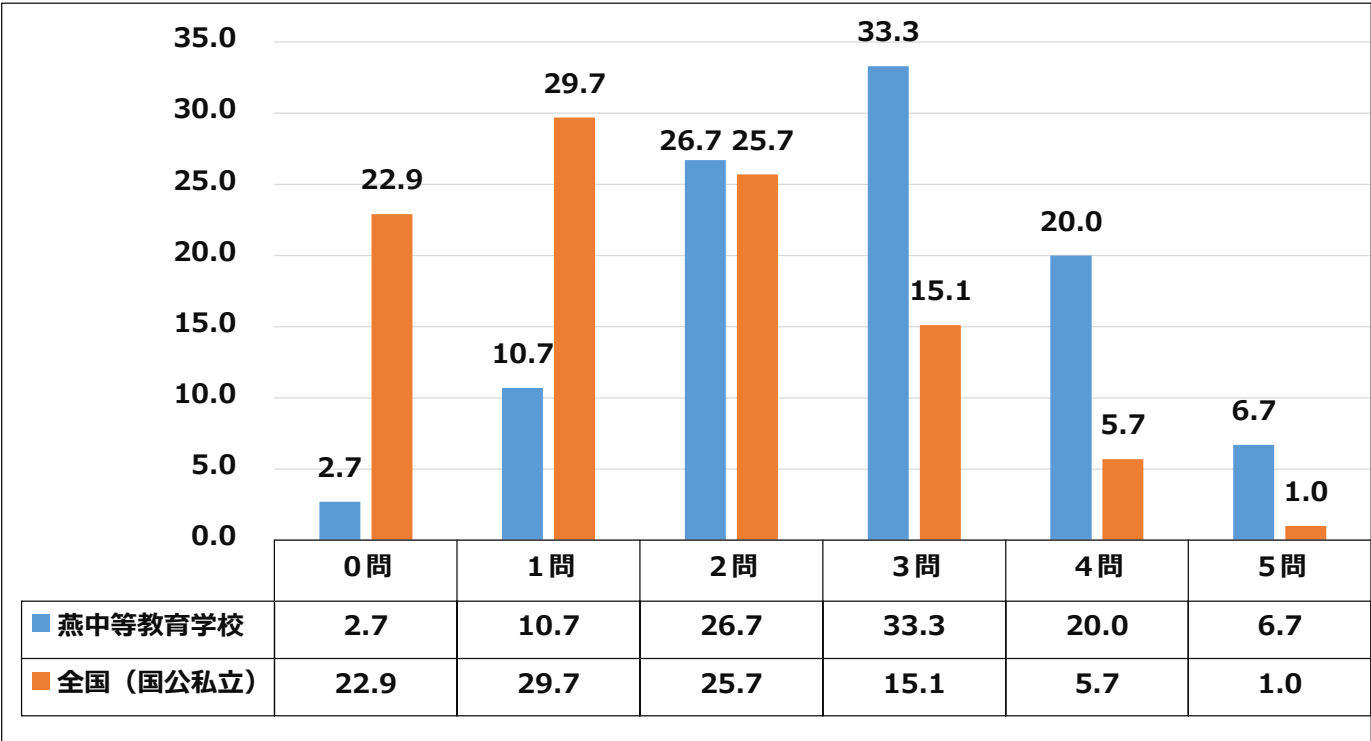
英語【課題】

- ・ライティングに関しては、自分の意見を書く問題の正答率が他の問題に比べて低いことが大きな課題である。

英語【改善策】

- ・引き続き、課題や授業であるテーマについて、自分の意見を理由も含めて論理的に表現する練習を続けていき改善を図る。

正答数集計値 割合（％）【英語（話すこと）】



英語（話すこと）【分析】

- ・スピーキングは平均正答率55％（全国30.8％）と大きく上回る結果となり、英語で話す力を付けることができていると分析する。特にスピーキングの指導は、1学年の初めから音読指導や定期考査ごとに実施してきたインタビューテスト等をとおして、継続的に指導をしてきた成果が現れている。

英語（話すこと）【課題】

- ・「バスで登校する少年の絵を見て、交通手段を答える」という問題では、busに強勢を置いて発音するのが正解だが、正しく回答できた生徒は0％（全国0.2％）という状況であった。今後の大きな課題である。
- ・「カレンダーを見て、少女の誕生日を答える」という問題では、正解した生徒の割合が28％（全国27.4％）という状況であった。今後の大きな課題である。

英語（話すこと）【改善策】

- ・今後も基本的な文法をおろそかにせずに取り組ませていく。また、問われたことに対してどの部分に強勢を発音して話さなければいけないのかを、丁寧に指導していき改善に努めていく。